

## 研究課題名：転移性前立腺癌における泌尿器関連合併症の頻度と局所放射線照射の効果に関する後向き研究

### 1. 研究の対象

2008年1月1日～2017年12月31日に診断された患者に前立腺がんと診断された方

### 2. 研究目的・方法

転移性前立腺癌に対する早期の局所治療(手術・放射線)追加が予後を延長する可能性を示唆する後向き解析結果が複数報告されている。いくつかの前向き研究が進行中であるが、日本人は欧米人よりも転移性前立腺癌患者の予後が長いと報告されており、独自の検討が必要である。日本臨床腫瘍グループ(JCOG)では、「転移性前立腺癌に対する早期の局所放射線治療の有効性に関する前向き研究」を行う予定であるが、日本人の転移性前立腺癌の5年生存率は標準治療下で80%を越え、局所治療追加による予後延長効果は期待しにくいと想定される。一方で、転移性前立腺癌患者の約半数において、死亡までに、尿閉や尿管狭窄など何らかの泌尿器科合併症(urological-related event:URE)を認めると報告され、それらを局所放射線治療により泌尿器科合併症を予防できる可能性はある。

本研究では、JCOGの中の泌尿器科サブグループである日本泌尿器腫瘍グループ(JUOG)の中で、研究参加希望施設において、過去10年間に転移性前立腺癌と診断された患者情報を後向きに収集し、UREの発生頻度と発生時期を調査する。診断時や去勢抵抗性獲得時の背景因子から、UREが発生しやすい症例を抽出し、前向き研究における症例選択に用いる。UREに対して局所手術や局所放射線照射を行った症例については、その症状改善効果と予後延長効果について評価する。本研究の結果により、転移性前立腺癌の治療中に、重度のUREが高頻度で発生し、発生後の局所放射線照射では、それらの症状を十分に軽減できない傾向を認めた場合に、予定している前向き研究を開始する。

### 3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：病歴、治療歴、副作用等の発生状況、カルテ番号 等

### 4. 外部への試料・情報の提供

データセンターへのデータの提供は、特定の関係者以外がアクセスできない状態で行います。対応表は、当センターの研究責任者が保管・管理します。

## 5. 研究組織

宮崎大学	賀本 敏行	
	香川大学	杉元幹夫
	新潟県立がんセンター新潟病院	斎藤俊弘
	筑波大学	小島崇宏
	鳥取大学	森實修一
	慈恵医大	木村高弘
	千葉大学	坂本信一
	奈良県立医大	田中宣道
	浜松医大	三宅秀明
	秋田大学	成田伸太郎
	京都大学	井上貴博
	鹿児島大学	榎田英樹
	山口大学	松本洋明
	山形大学	土谷順彦
	九州大学	猪口淳一
	茨城県立中央病院・茨城県地域がんセンター	島居徹
	弘前大学	橋本安弘
	四国がんセンター	富田諒太郎
	東北大学	三塚浩二
	北海道大学	大澤崇宏
	函館五稜郭病院	高橋敦
	山梨大学	神家満学
	宮城県立がんセンター	川村貞文
	名古屋大学	加藤真史
	札幌医大	福多史昌
	静岡県立総合病院	公平直樹
	原三信病院	横溝晃
	横浜市立大学	三好康秀
	島根大学	安本博晃
	国立がん研究センター東病院	松原伸晃

## 6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。  
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、  
研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出  
ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

宮城県立がんセンター治験・臨床研究管理室 倫理審査委員会担当 村尾 知彦  
〒981 - 1293 宮城県名取市愛島塩手字野田山 47 の 1  
TEL 022-384-3151 (代表) (内線 973)

研究責任者：泌尿器科 医療部長 川村 貞文

研究代表者：

宮崎大学医学部発達泌尿生殖医学講座泌尿器科学分野・教授 賀本 敏行